

アグリハブ全国アンケート集計結果

1. 調査の目的

個人農家向け農作業支援アプリ「アグリハブ」は、生産者の農作業管理を軽減するために Agrihub 社が開発した無料で使用できるアプリケーション（スマホ版／WEB 版）である。令和 3 年 8 月には農総研との共同研究開発の成果として、農作業予定管理機能と作付履歴の管理機能の統合を行った。

そこで、アプリの使用状況や共同研究で追加した新機能の有用性を調査するために、アグリハブユーザーに Web アンケートを実施した。

2. 調査方法

全国のアグリハブユーザー向けに、アプリ画面にアンケートへのリンクバナーを設けたほか、メールや Twitter で抽選プレゼント付の Web アンケート実施を周知し、回答を得た。

3. 調査期間

令和 3 年（2021 年）12 月 28 日～令和 4（2022 年）年 1 月 21 日まで

4. 回答状況

アグリハブ登録ユーザー数：19,543 名（令和 4 年 1 月 21 日時点）

回答数：391 名（全回答 393 件のうち重複 2 件を削除）

回答率：2%

5. 回答者について（有効回答数 391 名）

5.1. 年齢構成及び農業従事年数

アンケート回答者の年齢構成は、「40代」が125人（構成比32%）と最も多く、次いで「30代」（同26%）、「50代」（同19%）であった。60代以上も16%と、幅広い年齢層にスマホアプリが受け入れられている（図1）。

回答者の農業従事年数は、就業してから5年以下の「新規就農者」の構成比率が53%と最も多く、6年～20年以下の「中堅農業者」は33%、21年以上の「熟練農業者」の割合は14%であった（図2）。年齢階層別の農業従事年数を見ると50代以下で新規就農者（緑色）の占める割合が50%を超えていた。一方60代以上の回答者では、中堅農業者（青色）と熟練農業者（橙色）で60%を超えており、経験豊富な農業者もアグリハブを利用している（図3）。

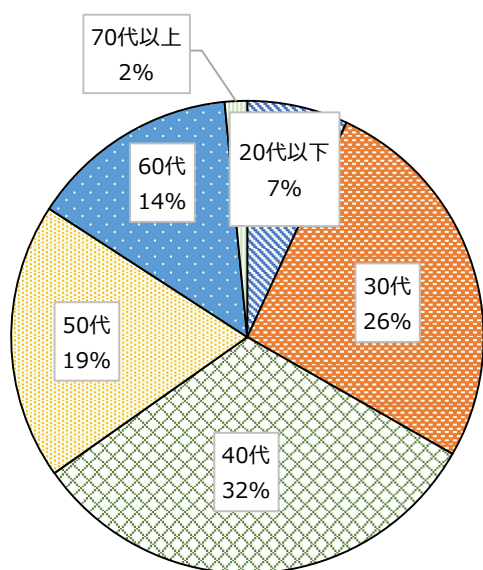


図1 回答者の年齢構成

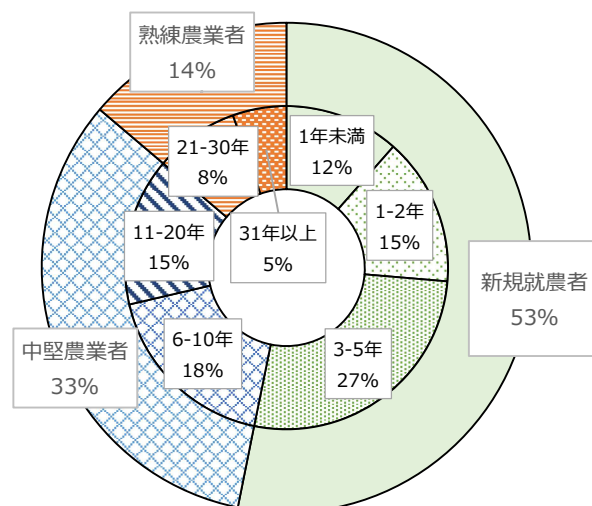


図2 回答者の農業従事年数

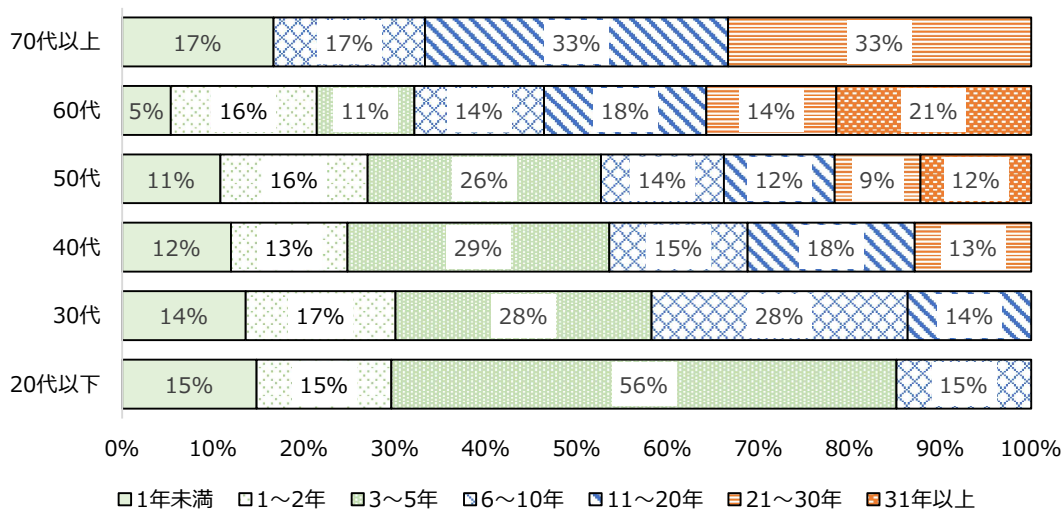


図3 回答者の年齢階層別農業従事年数（構成比）

5.2. 農園経営の主要作付け品目

農園で作付けしている主要品目について、複数選択可として得た回答構成では、野菜のみを栽培している回答者の割合が 40.4%、野菜と他の品目を組み合わせて栽培している割合（家庭菜園を除く）が 30.8%であった。また果樹や水田、花き栽培、茶、畜産農家（飼料）など野菜以外の品目でも本アプリを使用しているケースがあった。一方、家庭菜園のみでの使用は全体の 7.4%で、多様な事業品目の農作業管理アプリとして使用されている（図 4）。

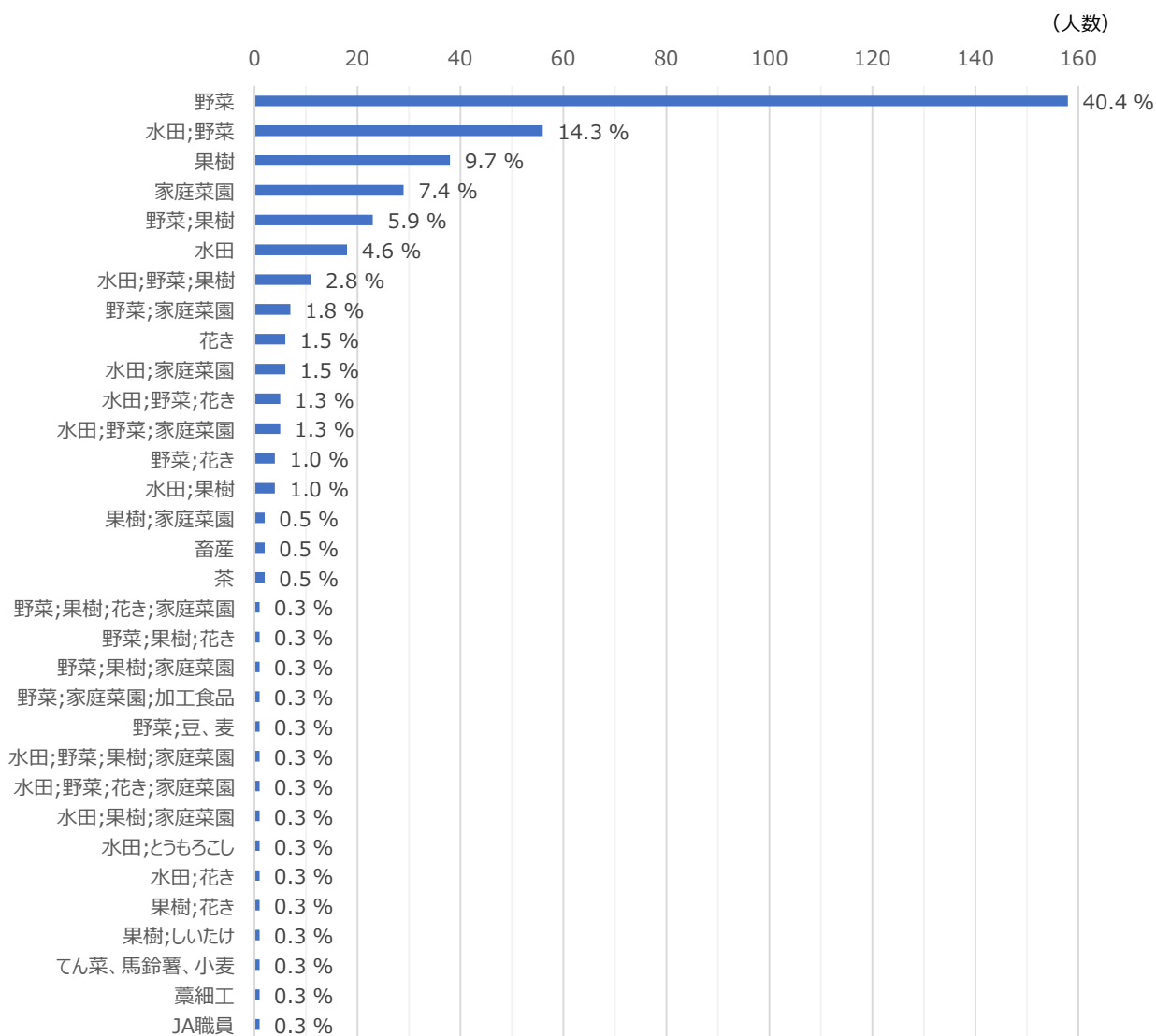


図 4 農園経営の主要作付け品目の人数と回答比率

6. アグリハブ利用全般について

6.1. 利用機能（複数回答）

アグリハブには栽培管理だけでなく売上管理など多様な機能が搭載されている。利用している機能を複数回答可として得た結果、「作業記録」は回答者の 92%が使用していた。農作業記録をデジタルデータとして保存しておくことに多くの回答者が価値を見出していると言えよう。次いで「農薬管理」は 73%、「肥料記録」は 49%の回答者が使用しているという結果であった。

アグリハブの「農薬管理」はアプリ公開時からの機能で、事前に保有農薬を登録しておく、FAMIC の登録データを基に適用病害虫ごとに単品目はもちろんの事、複数品目に同時散布可能な農薬の種類や散布回数の管理情報が即時に表示される。病害虫防除指針などで調べる必要がないことから、データ管理の利便性を活用している機能といえよう。2021 年 7 月上旬には農薬の希釈倍率や必要な農薬量の自動計算、同年 8 月上旬には散布後の出荷可能日数も表示するなど機能も拡張されている。

「肥料記録」は、2021 年 7 月上旬に搭載された機能で、半年余りで半数近い生産者が使用している。保有している肥料を登録すると、作付けに使った成分毎の使用量を簡単に把握できる。

2021 年 8 月下旬に統合した共同研究で開発した「農作業予定管理」機能は、半数以上の回答者が機能追加に気づいていなかったこともあり、利用者は少なかったが、6.2 で「これから使用予定／使用するかもしれない」との回答が多く、今後の伸び率に着目したい（図 5）。

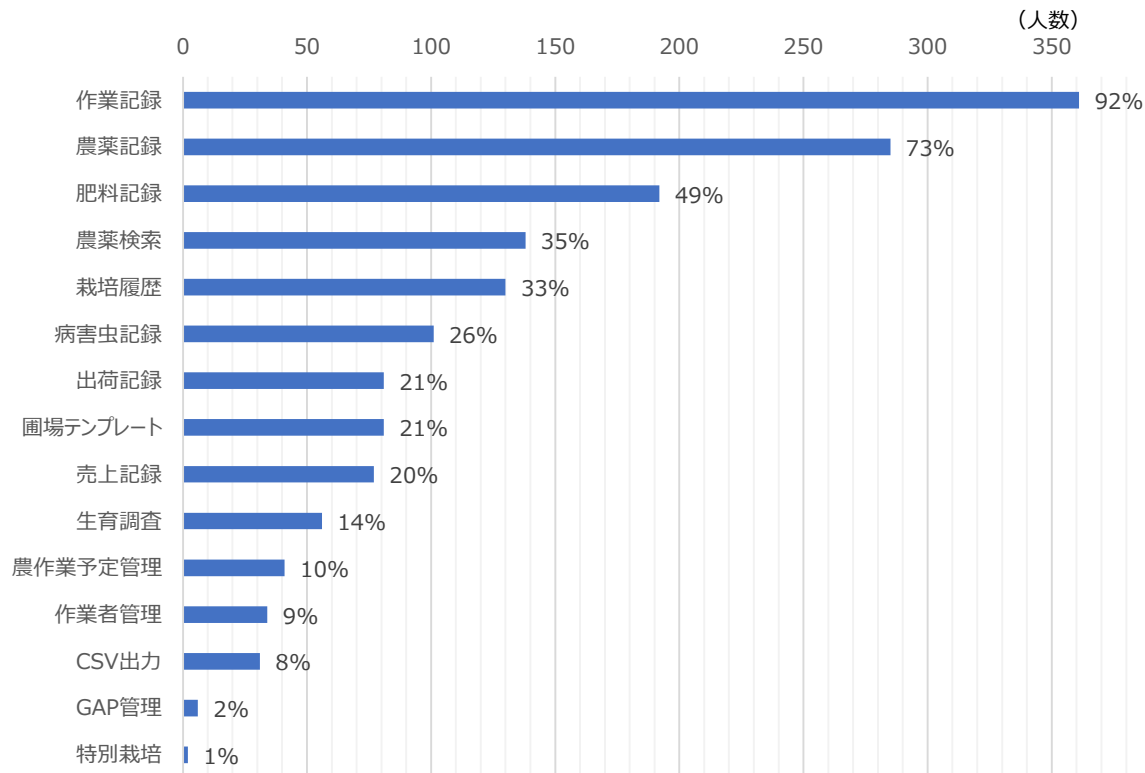


図 5 利用機能の人数と回答比率

6.2. アグリハブに追加した農作業予定管理機能について

共同研究で開発した新機能（予定管理機能、作付履歴の管理機能）の追加から4カ月経た時点で、予定管理機能の認知度と利用可否を聞いたところ、機能追加に気づいていた人は44%であった。そのうちの約1/3（全回答者の14%）が予定管理機能を使用していた。「気づいたが使用しなかった」（同30%）人の理由としては、「入力が手間だと感じた」（同12%）や、「別のツールで予定を管理している」（同5%）、「登録方法がわからない」（同5%）、という回答が続いた。回答者の半数を超える56%の人は、予定管理機能に気づいていなかった（図6）。

予定管理機能を使用していなかった計337人に、今後の使用予定を聞いたところ、28%の人が「使用予定」、66%の人が「使用するかもしれない」との回答を得た（図7）。

現状では、新機能追加の内容を知るには、アプリメニュー「その他」→「ヘルプ」→「お知らせ」→「リリースノート」と階層をたどらなければならず、ユーザーが見逃している可能性がある。リリース時期や利用法などをわかり易く周知することで、新機能の利用を促すことができるのではないだろうか。

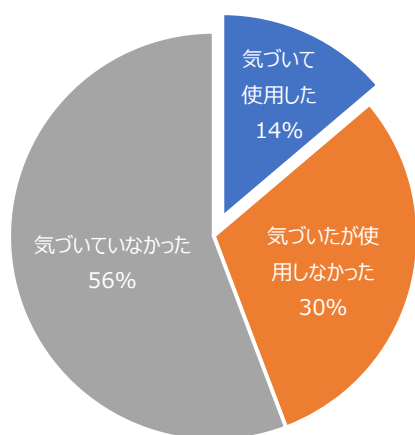


図6 農作業の予定管理機能について

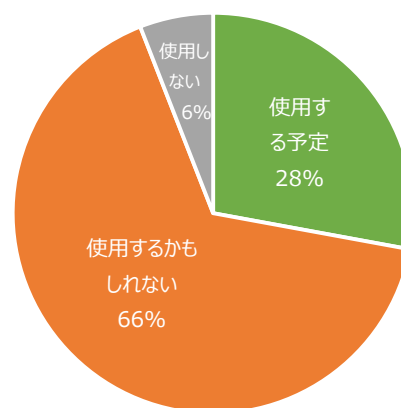


図7 予定管理機能の使用予定

6.3. 予定管理機能の使用感

予定管理機能を使用した54人の感想では、農作業忘れや作業ミスが以前より減ったという回答は49%であった。また、作業予定を編集すれば簡単に作業記録を登録できる利便性に対しては58%で、予定管理機能の利用による作業効率向上に対しては47%で好意的な評価を得た（図8）。

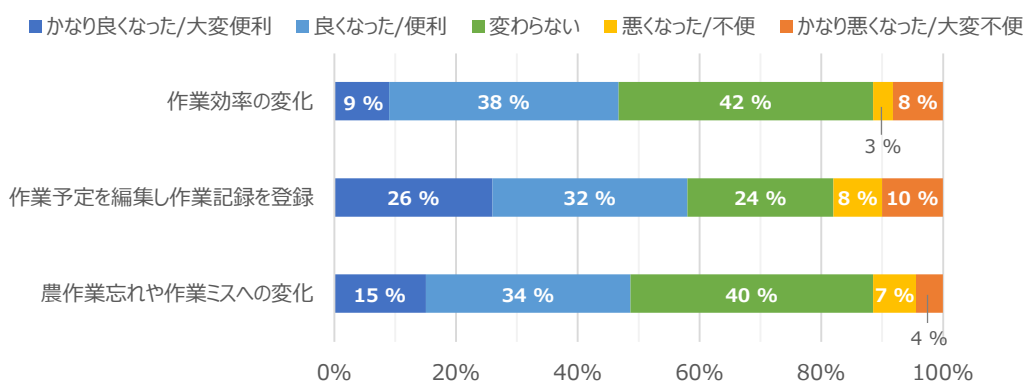


図8 予定管理機能の使用感

6.4. アグリハブ利用前の農作業予定の立て方

アグリハブを利用する前に農作業の予定をどのように立てていたかを聞いた。ノートに記載する農業日誌やカレンダーなど、「紙媒体」の回答が 35%であった。次いで「頭の中で」漠然と考えているケースが 29%、EXCEL などの「表計算ソフト」利用が 15%、スマホや PC の「アプリ」利用が 12%で、デジタルデータ管理をしているケース（緑色）は合わせて 27%であった（図 9）。

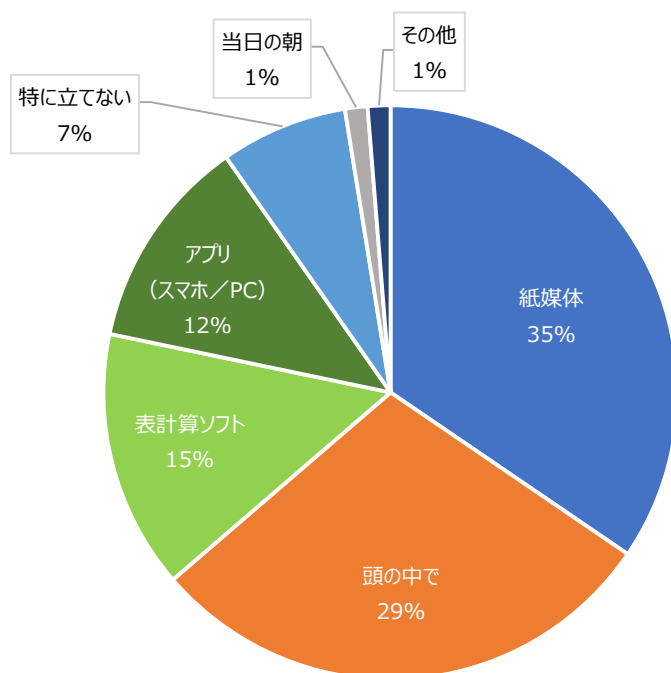


図 9 アグリハブ利用前の農作業予定の立て方

6.5. 農作業の予定立案時期

農作業の予定を立てる時期については、「1週間位前」に立てるケースが28%、「作業後に次の予定を立てる」が23%、「作付け時に全体の予定を決める」が21%であった。「1週間前」や「3日前」に予定を立てる理由としては、天候を考慮して決めている生産者が多かった。

アグリハブに対する改善要望の1つに、農作業テンプレートの追加要望が何件もあった。「作付け時に全体の予定を決める」生産者にとっては、このテンプレートが予定入力の手軽化に役立つ可能性がある（図10）。

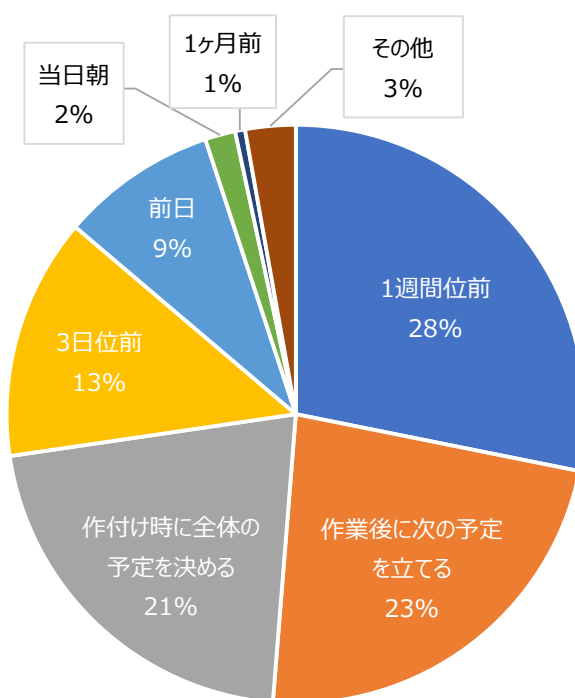


図10 農作業の予定立案時期

6.6. 作付履歴の管理機能について

共同研究で開発した作付履歴の管理機能について、連作障害の予防に役立つかどうかを聞いたところ、86%が「役立つ」と回答した。8%の「役立つたない」と 4%の「関係ない」と回答した理由では、単品目栽培のため連作障害の心配がないケースや、生産者自身で連作障害への対応が来ているというコメントが多かった（図 11）。

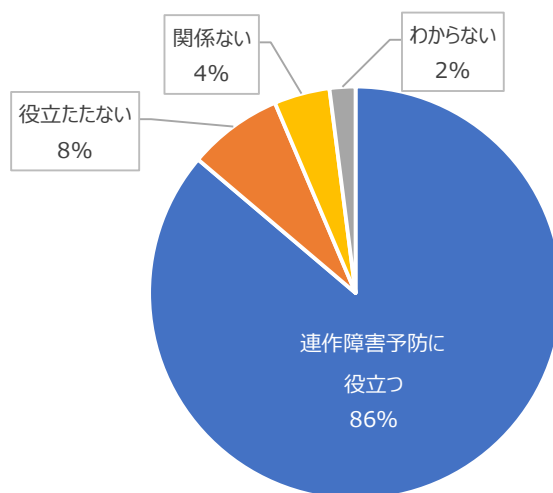


図 11 作付履歴の管理機能について

6.7. スマートフォンやPCを使用した農作業管理の効率化について（複数回答）

スマートフォンやPCを使用して農作業管理を行うことで、生産者が効率化されると感じる項目について複数選択可で回答を得ました。場所を問わずにデータの入力や閲覧ができることや、過去の蓄積データを簡単に見返せるという、データ活用の利便性に関する項目に対し、72～80%の高評価を得ました（図 12）。

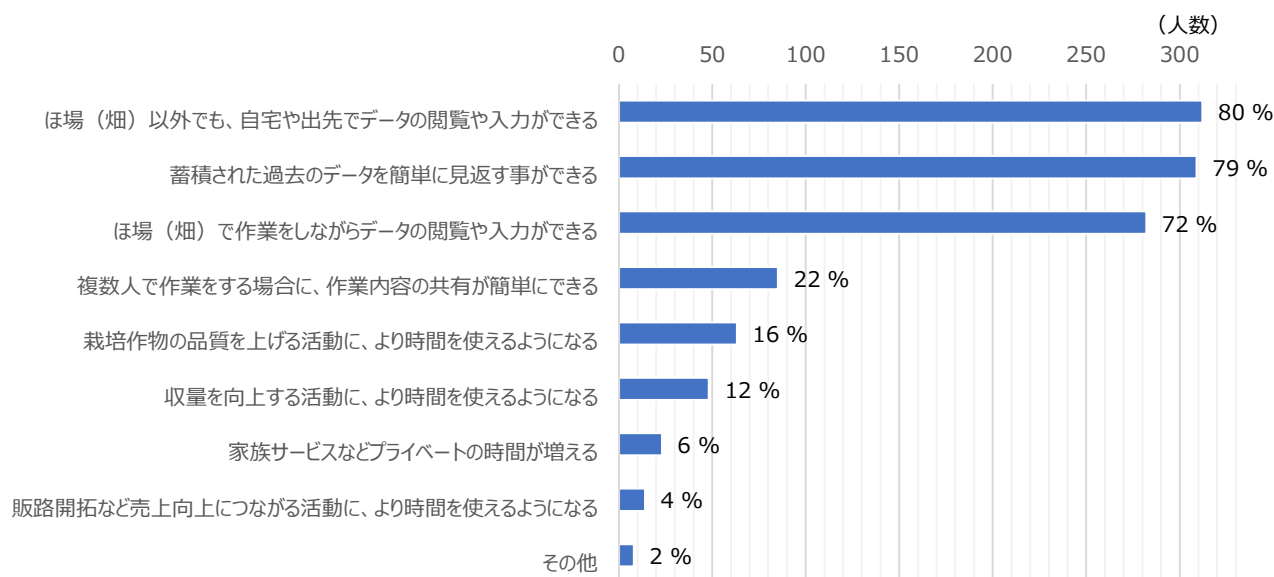


図 12 スマートフォンやPCを使用して農作業管理を行うことで効率化される項目

6.8. 農園で起こるであろう今後の変化について（複数回答）

アグリハブを使い続けた場合に、回答者の農園でどのような変化が今後起こると考えるか質問したところ、「作業効率化」と回答した割合が全回答者の 82%、「農業のデジタル化」と回答した割合が 70%であった。アプリを使用することによる一次的な変化を意識している回答が多かった（図 13）。

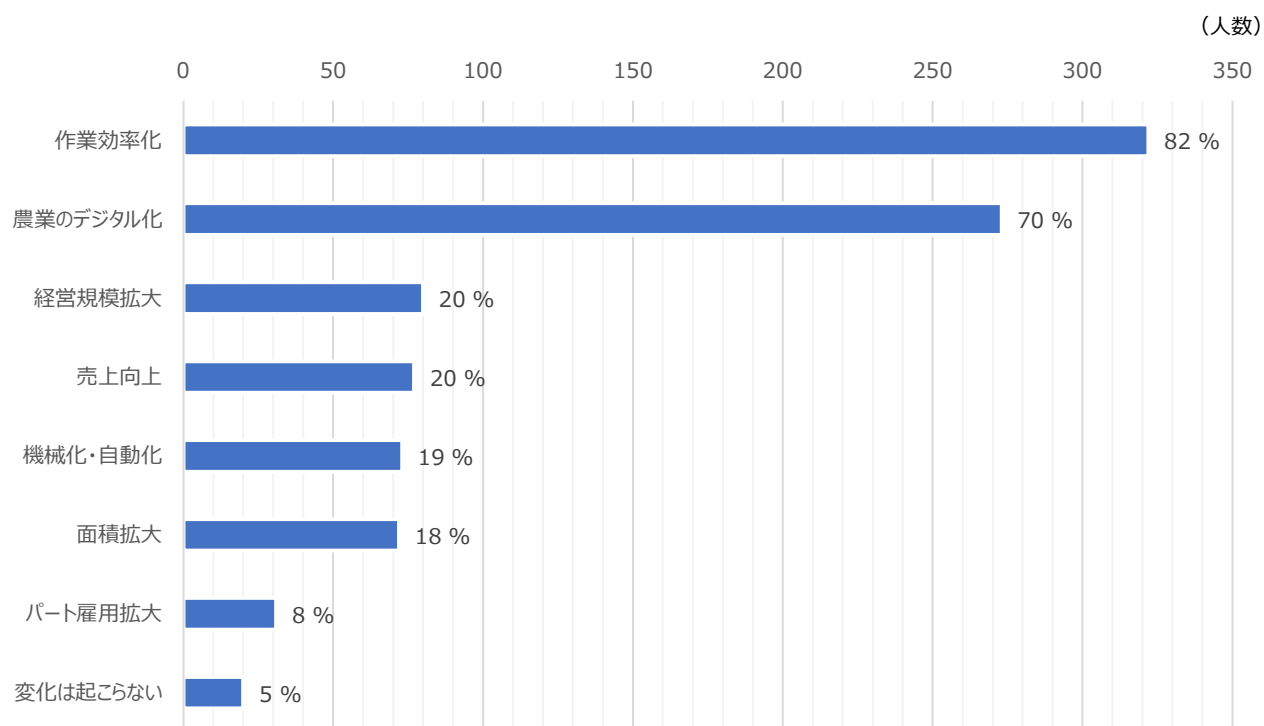


図 13 あなたの農園では今後どのような変化が起こると考えるか

6.9. アグリハブを他の人に薦めたいか

アグリハブを半年以上使用しているユーザー288人を対象に、アプリを他の人に薦めたいかを聞いたところ、82%のユーザーが「薦めたい」と回答した。利用者紹介による新たなユーザー獲得の可能性が多いにある（図14）。

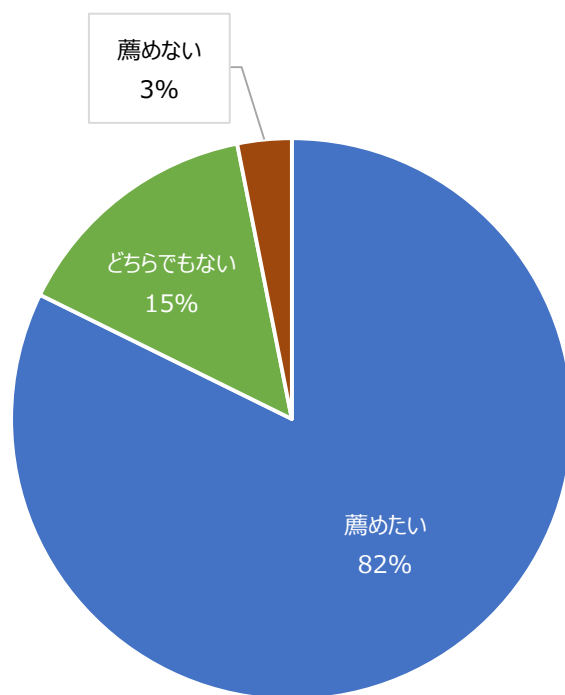


図14 アグリハブをどのくらい他の人に薦めたいか（半年以上利用者）

本資料は、全国のアグリハブユーザーを対象にアプリの使用状況についてオンラインアンケートを実施した結果から、公開可能な内容をまとめています。

【本資料に関する問い合わせ先】

公益財団法人東京都農林水産振興財団 東京都農林総合研究センター スマート農業推進室
〒190-0013 東京都立川市富士見町 3-8-1 電話：042-528-0572（直通）